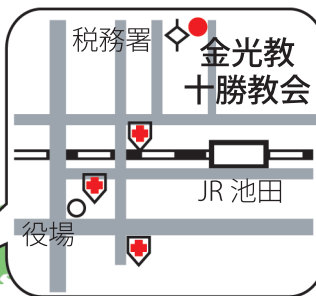
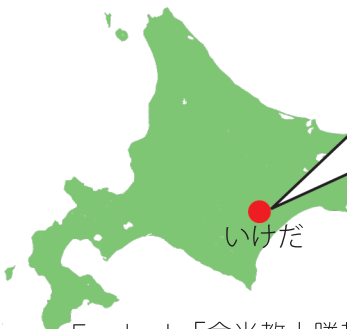


TEL 015-572-2322
FAX 015-572-4213



金光教十勝教会
〒083-0001

Facebook「金光教十勝教会」池田町旭町1-9
<https://konkotokachi.stars.ne.jp>

十勝教会 だより 108



Facebook



教会HP(PC)



金光教公式HP

「おかげ」はわがこころ次第

金光教十勝教会

『おかげ』はタライに入れた水のようなもの。向こうへやろうとすれば、こちらへ来る。こちらへ取ろうとすると、向こうへ行く。

ある時、教祖様のところへお参りした信者さんに教祖様がこう言ったそう

な。
それを聞いた信者さんが「『おかげ』ってツンデレか!？」と言ったかどうかは定かではない…

それはさておき、「『おかげ』を向こうへやろうとすると、『おかげ』の方からやって来る」とはどういうこと？

○

そもそも「おかげ」とは天地金乃神様のご配慮やお働きのこと。太陽や雨、大地の恵みなど天地の働き、いのちの働きをはじめ私たちが生きていくのに無くてはならない働きが「おかげ」。そして、そういう働きを整えてまで



私たちはこの天地なしには生きていけません。これ常識。

「人間に助かってほしい、生きて」ほしいと願う天地金乃神様の様々なご配慮が神様の「おかげ」なんだ。
そういう神様のお働きを向こうにやる、神様のお働きを「遠ざけようとする」。でも、そんなことはできそうにない。そもそも人間は、太陽や雨（水）、大地、つまり天地なしに暮らすことはできない。当然自分のいのちから離れるってこと自体がナンセンス。神様の「おかげ」から離れようなんてできないのだ。

じゃあ、教祖様が言う「『おかげ』を向こうにやる」っていうのはどういうことなんだろう？それって、自分の「心」が神様から離れるってことなんじゃないだろうか。

人間の心が神様から遠ざかる。これはありそうなことだ。

「神様なんか信じてない」って人のことはおいておいて、ボクたちみたい信仰を持っている人、信心している人でも神様から心が離れる、遠ざかることはよくある。例えば、心配なこと、不安なことがあってあれこれ思い悩むとき、不満がたまって愚痴るとき、こういうときが言ってみれば神様から心が離れている状態。

教祖様曰く「信心とは神様に心向けること」。前に書いたとおり、神様とは人間のいのちそのものであり、そのいのちを生かし支える様々なお働きのこと。そこまでして、人間に生きてほしい、助かってもらわないと困るといのが神様の思い。「その神様のお働きの中で何でもさせてもらえるんだか

ら、何でも有難くさせてもらおう。みんな神様の願いに生かされているんだから、人の命、尊厳、財産は大切にしよう。」と心がけつつ日々の暮らしを送るのが教祖様が説かれた信心。言ってみれば信心って「いつでも、どこでも、何でも神様と一緒にさせてもらおう」といことだ。

だけど、「心配で心配で心配で」みたいに心が心配や不安であふれているとき、「神様と一緒に心配のタネを解決させてもらおう」なんて余裕は心がない。自分が（人間が）何とかしなきゃとアタフタしているときこそ、神様から心が遠ざかっている状態だ。

でも、そういうときにこそ「おかげ」のほうから近づいてくるって教祖様は言う。

だって、神様は「人間に助かってもらわないと困る」って願っている、そういう神様なんだから。心配や不安でどうしようもないとき、不平不満がたまりにたまっているとき、そういうときこそ、神様は「おかげ」を授け

ようとするすぐ近くで待機してくれている。

「そんなに人間を助けたいならすぐに助けて！」と言いたくなるけど、そうはいかないんだ。

なぜ？神様も教祖様もこう言っている。「おかげは和賀心」にあり。「わが心」なんだ。あるいは「おかげは、めいめいの真の心に映るかげ」とも言われる。つまり、「おかげ」を受けるとかどうかは自分の心しだい。自分の心が神様を向いていないと、いくら神様が近づいてきても、なかなかおかげは受け取れない。



神様はいつでも、どこでも人間に、つまり私に「助かってもらわないと困る」と手を差し伸べてくれてる。「ここにおかげがある」とサインを送り続けてくれてる。でも、人間がそのサインを見落としている。だから、「そのサインを見落とさないように、日頃から神様のサインを読み取る練習をしなさい」、日頃から「信心を」し

なさいと教祖様は言うわけだ。例えば「神様のお働きの中で何でもさせてもらえるんだから、何でも有難くさせてもらおう。みんな神様の願いに生かされているんだから、人（他人も自分も）の命、尊厳、財産は大切にしよう」と心がけて暮らす。これだけでも信心の実践になる。「おかげ」を受けるかどうか、自分の心がけ一つだけなのです。

「おかげを取ろうとすると、あちらへ行く」については別の機会に：



本文とは直接関係ありませんが、教会のすぐ裏手の畑にやってくる丹頂鶴。

十勝教会って全国的にも丹頂鶴と一番出会える教会なのかも…

教会日誌

令和7年8月1日から10月31日まで

8月2日 北海道教区青少年のつどい「みどりのひろば」。
口さとらんど、3名参加。3日まで。南幌町、サッポ

写真 みどりのひろば

全道から子供たちが集まってキャンプやいろいろな体験をします。

今年はアイスクリーム作りやイモ掘りの体験をしました。

ボランティアスタッフや引率のみなさんが企画や運営をしています。興味のある方はぜひ教会までお問い合わせを



8月11日 教会設立記念祭・布教功労者報徳祭。

9月5日 幕別町、K家、三柱霊神式年祭。

9月10日 金光家先祖祭。みよ子先生参拝。

9月14日 稚内教会復興30年年記念祭。教会長参拝。

9月23日 秋季霊祭。

10月5日 滝上礼拝所生神金光大神大祭・秋季霊祭。

10月6日 滝上町、O家、墓じまい・改葬奉告祭。

10月12日 東京都、T家、式年祭。

10月12日 帯広市、M家、K家、S家、合同感謝祭。

10月19日 網走教会大祭、教会長教話奉仕。

10月26日 釧路教会大祭、交流参拝、教会長教話奉仕。

10月28日 北見市、Y家、一年祭。



写真 教会設立記念祭・布教功労者報徳祭

十勝教会の設立が認可され、今年で105年になりました。多くの方がこの広前で神様と自分の関係を教えてもらい、それぞれ信心しておかげを受けてきました。

お盆も近く、さすがに当日は暑さも一段落していましたが、それでもクーラー全開での祭典となりました。来年の夏はどうなるのでしょうか...？



写真 教会設立記念祭・布教功労者報徳祭

稚内市には明治から大正にかけて金光教の教会があったのですが、その後閉鎖されました。しかし、残った信奉者のみなさんが信心を守り続け、平成7年、中村教会長が赴任、教会が復興され30年の節年を迎えました。教話は福崎教会長・牛尾先生（兵庫県）



教会では、恒例の春秋の霊祭だけではなく、毎月霊祭を執り行っています。先人あつての私たちです。霊祭の時だけではなく、普段から先人のみなさんへお礼の心を忘れないようにしましょう。

写真 秋季霊祭



滝上教会が閉鎖された後、滝上町在住のご信者さんの自宅を改装して礼拝所が整えられました。新しい礼拝所はサクルー川のほとり、そして滝上公園のすぐそばという、絶景地にあります。

写真 滝上礼拝所

この後の教会祭典 行事予定

- 薫別講社・生神金光大神大祭 12月 5日（金） 午前11時
- 越年感謝祭（年越し大祓） 12月31日（水） 午後1時30分
- 元 日 祭 令和8年1月1日（木） 午後1時30分
- 薫別講社年頭祭 令和8年1月5日（月） 午前11時
- 教会新年会 令和8年2月8日（日） 午後12時

※薫別講社大祭、薫別講社年頭祭、令和8年新年会については、日程が変更になることもあります。

生神金光大神大祭祭典次第 金光教十勝教会

先「親神のよごしのままに」斉唱

祭員参向着席

拝 礼

神前拝詞奉唱

取次唱詞奉唱

祭主祭詞奏上

祭主玉串奉奠

天地書附奉体

参拝者代表玉串奉奠

金光大神賛仰詞奉唱

拝 礼

祭員退下

御神伝奉読・講師紹介

教 話

講師 児島赤崎教会長（岡山県）

藤井淳二 先生

よごしのままに

親神の

わが生神

取次の

代々を経て

神からも

両方の

親神の

生神を

神のひれ

照り映えて

取次の

とこしえに

金光大神

道立ちしより

今につづけり

氏子からも

恩人なりと

のらし給える

讃えまつらん

木綿崎山に

日の光なす

道の靈光を

仰ぎまつらん

金光教宣言

大いなる天地に生かされる人間として

すべてのいのちを認め、尊び

神と人、人と人、人と万物が

あいよかけよで

共に生きる世界を実現する



KONKOKYO
金 光 教

食 前 訓

食物はみな人の命のために

天地乃神のつくり

与え給うものぞ

何を食うにも飲むにも

ありがたく頂く心を忘れなよ

食 後 訓

体の丈夫を願え

体をつくれ

何事も体が元なり

親神のよごしのままに